



丸子中央小だより

夢は羽ばたく

令和8年度 第35号

令和8年8月21日

上田市立丸子中央小学校

子どもたちの声が学校に戻ってきました！

記録的な酷暑の夏、熱中症など健康面が心配されましたが、大きな事故やケガがなく夏休みを過ごせましたこと、保護者の皆様のお力添えに感謝いたします。

長い夏休みが終わり、本日、2学期がスタートしました。8時に昇降口が開錠されましたが、子どもたちの生き生きとした声が校舎に響き渡りました。「学校はやっぱりこうでなくっちゃ！」と思います。

この2学期は登校日数が85日間になります。学校や学年で多くの行事が予定されています。音楽会、高原学習、修学旅行、遠足、社会見学…等、子どもたちにとって、楽しい行事がいっぱいあります。行事を通して、子どもたちが大きくジャンプアップすることが期待できます。今学期も、子どもたちに、保護者のみなさまに、地域みなさまに愛される丸子中央小学校を目指し、職員一同、努めてまいります。変わらぬご理解とご協力をよろしくお願い致します。

お知らせ・お願い（ご協力をお願いします）

年度初めに保護者の皆様をお願いをした内容につきまして、再度お伝えしますので、ご確認ください。ご協力をお願いします。

○登校時刻について

- ・昇降口の開錠時刻は、課外クラブ加入児童は7時20分・それ以外の児童は8時です。
- ・落ち着いて朝の活動が始められるように、8時10分までに教室に入ることができるよう送り出してください。
- ・欠席、もしくは8時20分の始業時刻に間に合わない場合は、必ず8時までにtetoruにて連絡をお願いします。8時以降については、tetoruではなく学校の電話(42-2112)へ連絡をしてください。

○児童送迎時の駐停車場所について

本校では、児童送迎時の自家用車による乗降場所を、「**体育館南の職員駐車場**」としています。正門付近及び車の往来が激しい学校周辺の道路や店舗駐車場、保育園側にあるスクールバス用の道路、プールと校舎の間にある**砂利の広場**での児童の乗降はくれぐれもお控えください。なお、**砂利の広場は、「まるこ保育園」様の私有地**ですので、ご承知おきください。

○電話対応について

授業や児童対応のため、日中、学級担任が電話対応できない場合がほとんどです。連絡があったことを確実に伝えますので、放課後に折り返しの連絡をいたします。

学校の電話ですが、以下の時間帯は留守番電話となっています。この時間内に緊急の連絡がある場合は、上田市役所（電話２２－４１００）へお願いいたします。

【平日】**１８時００分～７時３０分** 【土日祝日】終日

○欠席児童への配付物等について

今年度は「欠席児童への翌日の授業予定の連絡や配付物、宿題等について、連絡児童やご近所の児童にお願いをして、または担任が直接、ご自宅に届けること」を行いません。必要な書類については、登校できたときにお渡しします。なお、配付物や宿題等を保護者の方が学校に取りに来てくださる場合は、その旨、欠席連絡の tetoru に入れていただければ、事務室に用意いたします。来校時刻は児童下校後でお願いします。なお、また、出席停止等で欠席が続く場合は、担任よりご相談の連絡を入れます。

○下校方法・帰宅場所・下校後の対応等について

- ・毎日、下校方法・帰宅場所についてお子さまとの確認を確実にお願いします。急な変更がある場合の学校への連絡ですが、下校時直前および下校時は対応ができませんので、時間に余裕をもった連絡をお願いします。
- ・下校後に忘れ物を取りに学校に来るということについて、今後は控えてくださいますようお願いいたします。往復の交通安全や教室内の物品に関するトラブル等の防止の観点、教室で外部の方に入っていただく会議会合等の理由がありますので、ご協力をお願いします。

○天候による学校待機について

夏から秋にかけて、下校時に雷や激しい風雨等の天候になることもあります。その場合は、児童を下校させず、しばらく学校（教室）で待機をさせ、天候回復を待ちます。児童の安全を最優先させますので、ご理解とご協力をお願いします。

○登下校時用のヘルメット・帽子着用について

立秋は過ぎましたが、まだまだ熱中症が心配される状況が続いています。そこで、**登下校時用のヘルメットを着用するかどうかについて、各家庭の判断にお任せする期間を継続**いたします。ただし、ヘルメットを着用しない場合は、熱中症や怪我の防止の観点から、帽子を被らせてください。４年生以上の高学年児童も帽子の着用をお願いします。

文部科学大臣からの「緊急メッセージ」について

１９日（水）に各ご家庭に配信した「児童向け」「保護者向け」をご覧くださいましたことと思います。長期休業明け、「学校に行きたい！」と思える子どもたちであることを願っていますが、必ずしもそうとは限りません。学校生活や学習、友人関係等に大きな不安があるものと考えられます。「学校に行かなければならない」「休んではいけない」と言う前に、子どもの心の内にある「なぜ？」「なにが」にしっかりと耳を傾ける必要があります。ご家庭と学校の両輪で、子どもの気持ちに寄り添っていきましょう。